

ソーシャルビジネス起業セミナー 開催報告書

<第1回目開催の概要>

日時：令和2年10月30日（金）18:30～20:30

会場：沼津トラストビル5階研修室(上土町3)

テーマ：ソーシャルビジネスで何ができる!?前編
地域に根差してみんなの力で起業する話

講師：立教大学コミュニティ福祉学部教授 藤井 敦史さん

参加者：22名



○講座の内容

ソーシャルビジネスの概念について、事例を交えて説明があった。

社会問題に対してビジネスのもつ効率性や持続性を発揮するためには、ビジネス業界以外の地域の人々の力や行政の制度の仕組みなども上手く活用しなくてはならないことや、ビジネスの力だけでは社会問題の源である社会的構造を変えることは難しいことなどが語られた。ソーシャルビジネスには、当事者のニーズやそのことを見過ごせないという気持ちと切り離せない「社会問題＝社会的目的」がまず存在し、その社会的目的に持続的に取り組むことで「ビジネス＝価値」が創造されお金を回す形が生まれると語られた。

<第2回目開催の概要>

日時：令和2年11月13日（金）18:30～20:30

会場：沼津トラストビル5階研修室(上土町3)

テーマ：ソーシャルビジネスで何ができる!?後編
社会を変えたお仕事の話(事例紹介)

講師：立教大学コミュニティ福祉学部教授 藤井 敦史さん

参加者：16名



○講座の内容

国内外の事例を紹介し、ソーシャルビジネスがどのように発展していけるかについて語られた。ソーシャルビジネスとはひとことで言えば「まちづくり」である。ソーシャルビジネスの可能性は人と人のつながりから必要となる資源を生み出すことにあるため、単体としてのビジネスの成功ではなく、地域の人々に頼り頼られる関係を築きながら「豊かな地域ネットワーク」を形成することで発展していけると説明された。



<第3回目開催の概要>

日時：令和2年12月11日（金）18:30～20:30

会場：沼津トラストビル5階研修室(上土町3)／オンライン（Zoom）

テーマ：持続可能な企画の発想と仲間づくり

企画の立て方・発想法・事業計画の手法を学ぶ

講師：一般社団法人マチテラス製作所

代表理事 深野 裕士さん

参加者：17名（会場4名、オンライン13名）



○講座の内容

企画の意義と目的は「考えている事業について理解を得たい、協力や参加を得たい」という想いと「事業内容がまとまらない、説明してもうまく伝わらない」という現状のギャップを解消するために必要であると説明があった。企画の肝となるのは、「どうやって事業を行うか」ではなく「なぜこの事業が求められているのか」を語る事が重要で、共感が生まれやすくなると語られた。参加者は企画ワークシートを作成しながら企画の発想法と事業計画の手法を学んだ。ソーシャルビジネスにおいて必要な「不足する資源を供給してくれる協力者を得る」ための準備に繋がる機会となった。

<第4回目開催の概要>

日時：令和3年1月8日（金）18:30～20:30

会場：沼津トラストビル5階研修室(上土町3)／オンライン（Zoom）

テーマ：起業計画を作ってみたらわかること

事業計画の立て方、資金計画のまとめ方

講師：沼津地域中小企業支援センター

コーディネーター 鈴木 聡さん

参加者：16名（会場3名、オンライン13名）



○講座の内容

ビジネスにおいて大切なことは事業を継続することであり、事業継続には常に資金獲得が必須であると説明があった。お金を調達できるレベルの事業計画は作成すべきであることから、参加者は日本政策金融公庫の創業計画書を例に、事業計画書の作成方法について学んだ。第3回目に作成したワークシートを基に、社会貢献をビジネスとして整理する方法や、事業を継続するために目指すべき収入金額、売り上げ根拠の考え方等について説明があった。事業を行うにあたってはネットワーク活用が大切であることから、講座の最後には「沼津地域中小企業支援センター」等の外部機関を活用しながら、想いを事業に変えていってほしいと激励があった。

<第5回目開催の概要>

日時：令和3年2月5日（金）18:30～20:30

会場：沼津トラストビル5階研修室(上土町3)

テーマ：プレゼン大会で起業プランを話してみよう

参加者：10名（会場4名、オンライン6名）



○講座の内容

最終回の講座では参加者3名が事業プランを発表し、沼津地域中小企業支援センターの鈴木さん、一般社団法人マチテラス製作所の深野さんからアドバイスを受けた。質疑応答では、「企画をまとめる際に苦労した点」「企画の肝」などが投げかけられた。企画を話す中で、他参加者にも取り掛かりのヒントや考え方のポイントを伝える機会となった。

○企画の内容

中学校と高校で非常勤講師を務める藤原さんは、中高生が「自ら社会や地域の問題を見つけ、解決する『探究的学び』」を追求する塾を考案した。「子どもたちと沼津とのつながりを維持するコミュニティにしたい」と意欲を示した。

御殿場市のパート従業員永塚さんは、耕作放棄地で綿花を栽培し、乳幼児のおくるみなどの綿製品に加工する事業について説明した。加工などの作業で障害のある方々の雇用創出を図りたいと熱意をアピールした。

沼津市ひとり親会副会長の工藤さんは、食品販売で確保した資金を活用し、ひとり親への食料配布や家事サポートなどのサービスを展開する事業案を紹介した。

○アンケート結果

- ・他の人の創業計画を聞き、気付きをあたえてくれる貴重な時間になった
- ・身近にある問題を発表して提案を聞いてもらうことで話が広がり、現実的になっていくことを感じた
- ・起業は難しいかもしれないけれど協力できることを考えていたらよいのかなと思った
- ・今までずっと考えていた起業（独立）を考えるきっかけになった

